

寝具についての調査

Research on Beddings

茅野 艶子 伊地知 寛子
Tsuyako KAYANO Tomoko IJICHI

This research on beddings forms a link in the chain of the program of investigation researches on clothing construction. From the last ten days of April to the end of May in 1971, questionnaires were distributed among two thousand, three hundred and eighty senior high school girls in Kagoshima city in order to know actual conditions of beddings in their house-holds. Two thousand out of two thousand, one hundred and fifty collected questionnaires were good.

The results were as follows:

- (1) The average number of beddings belonging to one person was researched. The number of counterpanes averages 2.0 per head, that of sleeping mats does 1.7, that of Mattress does 0.7, that of blankets does 0.9 and that of beds does 0.3.
- (2) The average number of beddings belonging to one household was larger in a large income-group than in small one. This tendency was remarkable especially in the average number of beds; the number of beds averages 1 to 1.6 in a family which had a yearly income less than ¥1,990,000 and averages 2.3 in a family which had a yearly income more than ¥3000,000.
- (3) In order to sleep soundly it was to be desired that a counterpane was warm, light, and agreeable to the touch and that a sleeping mat was stable, warm, hygroscopic and springy.

I 緒 言

寝具は、日常生活に極めて必要なもので、安らかな睡眠によって疲労を回復し、健康を保持し、新しい活動力を養うために重要な役割を果している。近年、生活の合理化、多様化に伴ない、寝具に対する関心も高まり、工夫、改良などもさかんに行なわれている。

本調査は、被服構成に関する調査研究の一環として、一般家庭における寝具の現状、問題点などを把握するために行なったものである。

II 調査方法

1 調査対象および時期

調査対象は、鹿児島市内の高等学校（9校に依頼）に在学する女子高校生 2,380名（当該高校で任意抽出）である。

調査の時期は、昭和46年4月下旬～5月下旬である。

2 調査方法

所定の調査用紙を、調査対象校の家庭科担当教諭を通して調査対象者に配布し、自己記入（家族の協力による）を依頼した。回収部数 2,150部（回収率 90.3%）、そのうち有効部数は 2,000部である。

III 調査結果および考察

調査対象者の世帯の概況は次のようである。

居住地区別では、中央地区 50.0%、伊敷地区 9.8%、吉野地区 9.6%、田上地区 8.6%、谷山地区 5.0%、その他 17.0%である。

職業別では、公務員 33.1%、会社員 25.2%、自家営業 18.1%、農業 6.9%の順である。

家族の男女別・年代別員数を第1表に示す。

第1表 調査対象世帯の家族の員数

性別	年代別	10才未満	10才代	20才代	30才代	40才代	50才代以上	合計
男	人	133	1,034	587	67	1,124	744	3,689人
	%	3.6	27.9	15.8	1.8	30.3	20.1	
女	人	180	3,009	600	253	1,512	655	6,209人
	%	2.9	48.5	9.7	4.1	24.4	10.5	
合計	人	313	4,043	1,187	320	2,636	1,399	9,898人

年間所得別では、100万～199万円52.6%、50万～99万円17.2%、200万～299万円 10.0%、300万円以上5.5%、50万円未満4.4%の順である。

設問事項は、第2表～第12表の上欄に記した通りである。

茅野・伊地知：寝具についての調査

1 寝具の所有状況

(1) 寝具の所有状況を第2表に示す。

第2表 寝具の所有状況

寝具の種類	掛ぶとん		敷ぶとん		肌掛ぶとん		マットレス	こたつぶとん	毛布	ベッド
	もめんわた入り	化繊わた入り	もめんわた入り	化繊わた入り	もめんわた入り	化繊わた入り				
1世帯当り平均所有数	5.8枚	4.0枚	5.3枚	3.1枚	3.5枚	3.1枚	3.5枚	1.9枚	4.2枚	1.7台

寝具の1人当り平均所有枚数は、それぞれ掛ぶとん2.0枚（もめんわた入り1.2枚、化繊わた入り0.8枚）、敷ぶとん1.7枚、（もめんわた入り1.1枚、化繊わた入り0.6枚）、肌掛ぶとん1.3枚（もめんわた入り0.7枚、化繊わた入り0.6枚）、マットレス0.7枚、毛布0.9枚、ベッド0.3台、こたつぶとん0.4枚などである。これによれば、掛ぶとんの所有枚数が最も多く、敷ぶとん、肌掛ぶとん、毛布、マットレスの順になっており、ベッドは約3人に1台の割合となっている。

なお、わたの使用状況は、敷ぶとんでは64%、掛ぶとんでは60%、肌掛ぶとんでは54%がもめんわた入りである。

(2) 所得階層別一世帯当りの寝具の平均所有枚数は附表1の如くである。

附表1 所得階層別一世帯当り寝具の平均所有枚数

種類別 所得別	掛ぶとん	敷ぶとん	肌掛ぶとん	マットレス	毛布	ベッド
50万円未満	6.3枚	5.2枚	3.1枚	2.5枚	6.3枚	1.0台
50～99万円	7.5	6.1	3.7	3.0	7.0	1.3
100～199万円	8.1	6.5	4.7	3.7	7.8	1.6
200～299万円	9.1	7.6	5.5	4.1	8.2	1.8
300万円以上	9.6	8.5	5.9	4.9	8.8	2.3

これによれば、いずれの寝具も所得階層が上昇するにつれて一世帯当りの所有枚数が多くなっているが、その格差はベッドが最も大きく、マットレス・肌掛ぶとんがこれに次ぎ、毛布が最も小さい。このことは毛布、掛ぶとん、敷ぶとんの所有弾力性が小さく、その普及率即ち必要度が高いことを示しているといえるであろう。

(3) 所有寝具の保有年数をみると、いずれも化繊わた入りの年数が短いのは、それらが近年普及したものであることによるものであると思われる。

2 寝具の購入状況

最近1年間に寝具を購入した世帯数は、65.1%である。第3表にその購入状況を示す。

第3表 購入状況

	購入状況 ()内は%						
購入の目的	買替え (57.4)	進学 (10.7)	就職 (4.9)	おくりもの (3.9)	結婚 (2.9)	出産 (2.1)	
購入先	専門店 (48.8)	デパート (22.5)	訪問販売 (7.8)	スーパー (2.3)	その他 (1.9)		
購入理由	品質がよい (29.9)	信用がおける (28.3)	安い (7.9)	品が多い (7.8)	店に近い (4.7)	サービスがよい (3.5)	
購入者	母 (66.5)	父 (7.2)	本人 (3.6)	姉 (2.7)	兄 (1.8)	祖母 (1.4)	祖父 (0.7)
仕立方	既成品 (44.3)	注文品 (26.4)	自家作成 (11.0)				

これによると購入の概況は、買替えのために、家庭の主婦が、品質がよく、信用がおけるなどの理由で、専門店やデパートにおいて、既製品や注文品を購入しているという実態が多いといえるであろう。

3 日常用寝具の購入状況

日常用の寝具を購入する場合の選択状況 (いずれも希望条件を含む) について

(1) わたの選択状況を第4表に、そのわたを選んだ理由を第5表に示す。

第4表 日常用寝具のわたの選択状況

わたの種類	もめんわた	化繊わた	その他
掛ぶとん	49.9 %	42.3 %	3.1 %
敷ぶとん	78.7	13.8	2.5

第5表 わたを選択した理由

もめんわた入り				化繊わた入り			
理由	%	理由	%	理由	%	理由	%
打ち直しがきく	24.7	自家で仕立てられる	8.3	軽い	27.0	衛生的である	2.5
吸湿性がある	18.9	衛生的である	3.8	肌ざわりがよい	13.0	通気性がある	1.1
保温性がある	14.0	家の習慣	3.1	保温性がよい	8.9	弾力性がある	0.6
安定性がある	8.3	重量感がある	2.9	丸洗いができる	4.8	かさだかい	0.2

茅野・伊地知：寝具についての調査

これによると掛ぶとんでは約50%、敷ぶとんでは約80%のものがもめんわたを選択している。

もめんわたを選ぶ理由としては、「打ち直しがきく」が約25%、「吸湿性がある」が約20%を占めているが、これは習慣上の条件と、衛生的見地から、もめんわたの特徴に対する要求度が高いものと思われる。また化繊わたを選ぶ理由としては、「軽い」が約27%を占めているのは、化繊わたの長所である「軽さ」に対する要求度が高いものと思われる。

(2) ふとん側の生地を選択状況を第6表に示す。

第6表 ふとん側の生地を選択状況

ふとんの種類	生地の種類	もめん織物	化繊織物	絹織物	その他
掛ぶとん		30.8 %	45.4 %	18.4 %	1.1 %
敷ぶとん		69.2	21.5	3.9	0.9

これによると掛ぶとんでは、約45%のものが化繊織物を選び、次いで約31%のものがもめん織物を選んでいる。敷ぶとんでは、もめん織物を選ぶものが約70%で最も大きな割合を示している。即ち両者に対する要求性能は、掛ぶとんでは外観上、敷ぶとんでは実用上の要求度が大きい傾向がみられる。

(3) 希望する購入単価

各寝具別に希望する購入単価の出現率を第7表に示す。

第7表 希望する購入単価

種類	単価	2千円未満	3千円程度	5千円程度	8千円程度	1万円以上
掛ぶとん		3.7 %	21.6 %	45.0 %	17.1 %	2.8 %
敷ぶとん		9.4	29.8	39.4	9.2	1.3
肌掛ぶとん		31.7	43.2	10.0	0.9	0.2
毛布		18.0	44.7	20.5	4.5	2.3

希望する購入単価としては、掛ぶとん、敷ぶとんともに5,000円程度が多く、肌掛ぶとん、毛布では3,000円程度となっている。

4 寝具の使用状況（冬期用）

調査対象者の家族の寝具の使用状況について、第8-1表は掛ぶとんの、第8-2表は敷ぶとんの、第8-3表は毛布のそれぞれ使用状況を示す。

第8-1表 掛ぶとんの使用状況

種 類	もめんわた入り 1枚	もめんわた入り 2枚	化繊わた入り 1枚	化繊わた入り 2枚	もめんわた入り化繊わた入り 各々1枚	もめんわた入り肌掛ぶとん 各々1枚	化繊わた入り肌掛ぶとん 各々1枚	そ の 他
使用者 %	23.1	15.4	8.4	6.0	20.0	14.4	6.7	2.7

第8-2表 敷ぶとんの使用状況

種 類	もめんわた入り 1枚	もめんわた入り 2枚	化繊わた入り 1枚	化繊わた入り 2枚	もめんわた入り化繊わた入り 各々1枚	もめんわた入りマットレス 各々1枚	化繊わた入りマットレス 各々1枚	そ の 他
使用者 %	28.0	7.4	3.7	1.1	2.1	44.5	7.9	2.0

第8-3表 毛布の使用状況

種 類	掛 け 毛 布			敷 き 毛 布			電 気 毛 布		
	1 枚	2 枚	3 枚	1 枚	2 枚	3 枚	1 枚	2 枚	3 枚
使用 者 %	70.6	25.4	1.4	78.7	4.0	0.3	16.9	2.7	0

これによると、掛ぶとんでは、もめんわた入り1枚か、もめんわた入り1枚に化繊わた入り1枚を加えたものの使用度が高く（約43%）、次いでもめんわた入り2枚、またはもめんわた入り1枚に肌掛ぶとん1枚を加えたものの使用度が、それぞれ約15%である。

敷ぶとんでは、もめんわた入り1枚とマットレス1枚を組合わせたものの使用度が最も高く（約45%）、次いでもめんわた入り1枚使用が約28%となっている。

毛布では、掛け毛布1枚使用が約71%、敷き毛布1枚使用が約79%で、いずれも特に高い使用度を示している。また掛け毛布、敷き毛布ともに3枚使用者は僅少である。なお電気毛布の使用度は約20%である。

5 寝具の寝心地について

掛ぶとんと敷ぶとんについて、寝心地のよいものとしての性能の要求度を第9-1表に、寝心地の悪い要因を第9-2表に示す。

第9-1表 寝具の寝心地（よいもの）の要求性能

掛 ぶ と ん				敷 ぶ と ん			
項 目	%	項 目	%	項 目	%	項 目	%
あたたかい	32.3	密着感がある	7.4	安定感がある	18.3	やわらかい	11.8
軽い	17.9	吸湿性がよい	6.9	あたたかい	16.3	衛生的である	8.6
肌ざわりがよい	17.5	重量感がある	3.5	吸湿性がある	14.6	厚い	6.6
衛生的である	8.0	かさだかい	0.1	弾力性がある	13.1	固さがある	3.4

茅野・伊地知：寝具についての調査

第9-2表 寝心地の悪いものの要因

掛ぶとん				敷ぶとん			
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
重い	27.1	あたたかくない	11.7	固い	22.6	あたたかくない	10.4
汗ばむ	14.2	うすい	2.0	むれる感じがする	17.8	弾力性がない	9.8
ふとんとカバーがずれる	13.7	肌ざわりがよくない	9.3	うすい	14.0	やわらかい	2.6
すべりやすい	12.8	軽い	1.5	安定感がない	12.6	かさだかい	1.2

これによると掛ぶとんでは、寝心地のよいものとしての要求性能は、保温性・軽さ・肌ざわりのよさの順であり、寝心地の悪いものとしては、重い、が1位にあげられ、次に汗ばむ・ふとんとカバーがずれる・すべりやすい、などの順で寝心地の悪いものの要因が指摘されている。

敷ぶとんでは、寝心地のよいものとしての要求性能は、安定感・保温性・吸湿性・弾力性の順にあげられ、寝心地の悪いものとしては、固い・むれる感じがする・うすいなどの順でその要因が指摘されている。

6 寝具の手入れ状況

寝具の手入れの状況について、ほしかた・わたの打ち直し・表側の仕立て直しの時期を第10表に示す。

第10表 寝具の手入れ状況

ほしかたについて		打ち直しについて		表側の仕立て直しについて	
期間	%	期間	%	期間	%
1週間に1回位	39.7	3年以内	39.4	3年以内	35.1
2週間に1回位	33.5	5年以内	31.5	5年以内	30.2
1カ月間に1回位	21.3	2年以内	17.7	2年以内	20.4
殆んどほさない	1.7	打ち直さない	5.3	1年以内	5.4

7 寝具の商品知識

(1) 寝具の商品知識は、何によって得ているかその状況を第11表に示す。

第11表 寝具の商品知識の取得状況

種類	%	種類	%	種類	%
チラシ	23.7	雑誌	17.1	ラジオ	1.2
テレビ	21.9	婦人学級	4.8	週刊誌	0.9
知人	20.2	学校	4.2	ネオンサイン	0.1
新聞	18.3	看板	2.5	その他	8.8

(2) 寝具についてどのような知識を得たいと希望しているか、その状況を第12表に示す。

第12表 希望する寝具の知識

項	目	%	項	目	%
品質の選びかた		78.2	仕立てかた		3.7
快適な睡眠		21.2	価 格		1.8
手入れ保存のしかた		20.1	そ の 他		0.5
衛生上の知識		13.0			

IV 要 約

鹿児島市内の高等学校に在学する女子学生 2,000名を対象に、それぞれの家庭における「寝具についての調査」を行なった結果を要約すると次のようである。

1 寝具の1人当たり平均所有枚数は、掛ぶとん 2.0枚、敷ぶとん 1.7枚、マットレス 0.7枚、毛布 0.9枚、ベッド 0.3台である。

2 所得階層別一世帯当りの寝具の所有枚数は、所得階層が上昇するにつれて、所有枚数が多くなっているが、その格差はベッドが最も大きく、199万円以下では1~1.6台、300万円以上では2.3台となっている。

3 日常用寝具を購入する場合、もめんわた入りを選択するものは、習慣上の条件と、衛生的見地から、もめんわたの特徴に対する要求度が高く、化繊わたについては、その長所である、軽さに対する要求度が高い。

4 寝心地を左右する要因として要求されている性能は、掛ぶとんでは、保温性・軽さ・肌ざわりのよきの順に、敷ぶとんでは、安定感・保温性・吸湿性・弾力性の順に指摘されている。

最後に、本調査にご協力を賜りました鹿児島市内の高等学校(9校)の諸先生、ならびに女子生徒の皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、集計整理に協力された本学女子学生10名の諸氏に謝意を表す。